

I 平成 30 年度事業報告書

(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)

当財団は、埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場の指定管理者として、平成 27 年度から 5 年間の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を引き続き実施してきた。

平成 30 年度は、彩の国シェイクスピア・シリーズ第 34 弾『ヘンリー五世』をシリーズ芸術監督吉田鋼太郎演出、松坂桃李主演により上演した。また、故蜷川幸雄芸術監督が結成した「さいたまゴールド・シアター」、「さいたまネクスト・シアター」の公演を実施し、故蜷川幸雄芸術監督が築き上げた「彩の国さいたま芸術劇場」のブランド力を発揮させることができた。

さらに、故蜷川幸雄芸術監督のもと、財団が培ってきたネットワークを活かした海外舞踊公演の招聘や音楽のシリーズ公演を開催し、また、県内の小中学校を対象としたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE」、「MEET THE MUSIC」を引き続き実施したほか、若手ダンサーの育成を目指す「さいたまダンス・ラボラトリ」を開催し、小中学生が芸術文化に親しむ機会を提供するとともに、次代を担う人材の育成にも努めた。

このほか、日本で初めてであり、世界的に見ても先駆的取組である高齢者による舞台芸術の国際芸術祭『世界ゴールド祭 2018』を埼玉県からの委託事業として開催し、世界 3 か国から招いた高齢者カンパニーによる公演をはじめ、国内外の専門家を交えたシンポジウムやアーティストによるワークショップを実施した。舞台芸術活動を通じて高齢社会の課題に取り組む世界の先進的事例や舞台作品を紹介することで、舞台芸術活動の新たな可能性を示した。なお、『世界ゴールド祭 2018』の一環として、2016 年に開催した「1 万人のゴールド・シアター 2016」公演の出演者を母体とした芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」による公演を開催した。また、さいたま市内の浦和市街地や与野本町駅周辺などで、地元商店街の協力を得るなどして屋外での演劇公演を開催し、芸術文化による地域づくりにも貢献した。

施設利用に関しては、安全・安心に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応したほか、財団ホームページ更新に伴い利用者への広報を充実するなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。特に、日本モダニズム建築の旗手である前川國男設計の埼玉会館では、ブランディング事業を展開し、DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメント建築 216 選」にも選定された。また、地元浦和の団体との共催による事業を実施し、地域の賑わいの創出にも貢献した。

1 事業の概要

(1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

ア 自主企画公演等及び国内外との交流 (62 事業)

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館では地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

(ア) 彩の国さいたま芸術劇場 (56 事業)

a 演劇部門

故蜷川幸雄芸術監督のもとで研鑽を積んだ俳優、スタッフ陣による多彩なラインナップを展開した。「蜷川レガシー」を継承するとともに、新たな取組による舞台芸術作品の鑑賞機会を提供することで、鑑賞者の更なる拡大につながった。

当劇場の看板シリーズである「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、同シリーズ2代目芸術監督吉田鋼太郎のもと、第34弾として、歴史劇『ヘンリー五世』(演出：吉田鋼太郎、主演：松坂桃李)を上演した。公演に加え、第一線の英文学者らによる『「ヘンリー五世」徹底勉強会』と題した連続講座や本公演開場前に無料ライブ(さいたまアーツシアター・ライブ!!)を実施したほか、シェイクスピアの歴史劇に焦点を当てた企画展示などの関連企画を行い、「蜷川レガシー」の継承を印象づけた。

高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターは、岩井秀人を演出に迎え、団員たちの実体験をベースにした新作『ワレワレのモロモロ』を上演した。人生経験豊かなさいたまゴールド・シアターのメンバーが取り組むことにより、演劇集団の新たな魅力を開花させるとともに、「高齢者と演劇」の可能性も広げることができた。職業俳優とは違った価値を持つ演劇集団へと成長し、表現活動の多様さや奥深さ、面白さなど、芸術文化の新たな可能性を提示した。

若手演劇集団さいたまネクスト・シアターは、新たな取組として、諸問題を抱える世界各地の現状を背景にした戯曲を演じる「世界最前線の演劇シリーズ」をスタートした。このシリーズの1として瀬戸山美咲による『ジハード』、2として中津留章仁による『第三世代』を連続上演した。演劇界で注目を集める若手演出家とさいたまネクスト・シアター新旧メンバーとのコラボレーションにより、ニュースでは届けられない人々の姿を舞台上に写し出した。

次代を担う演劇人の取組としては、「マームとジプシー」の藤田貴大による新作児童演劇公演『めにみえない みみにしたい』を上演し、子どもから大人まで鑑賞できる機会を設けた。また、吉川市でのアウトリーチ公演も実施し、より広い県民に演劇文化に触れる機会を創出した。

「松竹大歌舞伎」は、(公財)熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷文化創造館さくらめいとで7月に実施し、県北地域に伝統芸能鑑賞の機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
新作児童演劇公演『めにみえない みみにしたい』	4月～5月	小ホール 及び吉川市
さいたまゴールド・シアター番外公演 『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター 2018 春』	5月	大稽古場
さいたまネクスト・シアター∅ 世界最前線の演劇1 『ジハード -Djihad-』	6月～7月	大稽古場
松竹大歌舞伎	7月	熊谷文化創造館 さくらめいと
オックスフォード大学演劇協会招聘公演『十二夜』	8月	小ホール
さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇2 『第三世代』	11月	大稽古場
彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾 『ヘンリー五世』	2月	大ホール

b 舞踊部門

世界的に活躍する振付・演出家の最新作を招聘したほか、国内外で活躍するアーティストによる新作制作、普及教育を目的とした一流の振付家によるワークショップを開催するなど、多彩な身体表現の可能性を探る作品及び体験の機会を提供した。

主催公演として、国内からは、埼玉では12回目の登場となる近藤良平が率いる人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による新作『18TICKET』を上演した。海外からは、フランスを代表する振付家フィリップ・ドゥクフレが率いるカンパニーDCA のほか、フランスを拠点に活躍する日本人振付家・ダンサーの伊藤郁女、フラメンコ界に新たな風を吹き込んだイスラエル・ガルバンの公演を実施した。世界的に活躍する注目のアーティストの作品に触れる貴重な機会を国内でいち早く提供することで、「ダンスなら埼玉」と言われる高い評価の維持・拡大につながり、県内外からも多くの鑑賞者が訪れた。

また、オーストラリアの先住民文化とコンテンポラリーダンスが融合したバンガラ・ダンス・シアター『Spirits2018』『I. B. I. S』を、オーストラリア政府が主催する「オーストラリア NOW」のメインプログラムとして埼玉で初上演した。国内では比較的馴染みが薄い豪州カンパニーの上演は、これまでの欧米を中心としたコンテンポラリーダンスファン層以外の開拓につながった。

一方、子どもと大人が一緒に楽しめる人気ダンス・シリーズ「日本昔ば

なしのダンス」を上演し、親子の対話の機会やダンスに対する興味を深めるきっかけづくりを提供した。

また、今年度から新たに若手ダンサー・学生を対象に「さいたまダンス・ラボラトリ」を開始した。ネザーランド・ダンス・シアターの元ダンサーで世界を舞台に活躍する湯浅永麻・小尻健太を迎えワークショップを実施し、明日を担う若手ダンサーの育成・支援に貢献した。

そのほか、平成26年度から実施している振付家、ダンサーによる、県内中学校の生徒を対象にしたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」を引き続き実施した。身体表現を通じて仲間とコミュニケーションを取っていく大切さを学べる機会を提供することで、舞台芸術の理解促進が図れた。

共催公演としては、振付家金森穰が率いる新潟りゅーとぴあを拠点とするプロフェッショナル・ダンス・カンパニー「Noism1」の新作のほか、オランダのダンスカンパニーNDTで活躍した日本人ダンサーにより結成されたダンス・プロジェクト「Opto」による公演を実施し、県民に多様な舞台芸術に触れる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ埼玉公演 2018 『18TICKET』	6月	大ホール
フィリップ・ドゥクフレ/DCA 『新作短編集(2017) -Nouvelles Pièces Courtes』	6月～7月	大ホール
伊藤郁女『私は言葉を信じないので踊る』	7月	小ホール
さいたまダンス・ラボラトリ (WS)	8月	大稽古場
イスラエル・ガルバン 『LA EDAD DE ORO-黄金時代』	10月	大ホール
バンガラ・ダンス・シアター 『Spirits2018』『I. B. I. S』	11月	大ホール
日本昔ばなしのダンス『かさじぞう』『てんぐのかくれみの』『つるのおんがえし』	2月	大稽古場
MEET THE DANCE ～アーティストが学校にやってくる！		県内中学校
Noism1 × SPAC 劇的舞踊 Vol.4 『ROMEO&JULIETS』【共催】	9月	大ホール
Opto 『optofile_touch』【共催】	12月	小ホール

c 音楽部門

音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開することで、鑑賞者の更なる拡大につながった。

世界最高級の演奏を鑑賞できる機会としては、毎年恒例のバッハ・コレ

ギウム・ジャパン公演のほか、ピアニストのヴァレリー・アフアナシエフ、ヴァイオリニストのアリーナ・イブラギモヴァ&ピアニストのセドリック・ティベルギアンのデュオ、ベルリン・フィル ブラス・トリオ公演を実施した。バッハ・コレギウム・ジャパン公演に際しては関連レクチャー、ベルリン・フィル ブラス・トリオ公演に際してはメンバーによる楽器クリニックを行った。本格的なクラシック音楽を埼玉の地で楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の素晴らしさを国内外に発信することができた。

12年目を迎えた、若手の中でも選りすぐりのピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」公演を継続実施したのに加え、5年目を迎えたリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」では、出演者による「関連レクチャー」や「公開レッスン」を実施し、次世代の育成に資するべく内容の充実を図った。また、若手パーカッショニスト・作曲家として世界から注目されるアレクセイ・ゲラシメスを迎え、日本初リサイタルを開催した。若手アーティストの公演を継続的に実施することで、次の世代の発掘支援に貢献した。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」、オルガンを通じて音楽の普及啓発を図る「みんなのオルガン講座」、演奏とレクチャーを通じてオルガンや古楽について学ぶ「大塚直哉レクチャー・コンサート/オルガン・レクチャー（演奏付）」を開催した。

普段クラシックに馴染みのない方や劇場の存在を知らない方にも、気軽に劇場に足を運ぶきっかけを提供することで、多くの方々に芸術文化や劇場の活動・魅力についての理解促進が図れた。

そのほか、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施した。鑑賞機会の少ない県北部、秩父地域を中心に事業を実施することで、裾野の拡大につながった。

また、3年目を迎える共催事業として、埼玉県在住で日本を代表するピアノデュオ ドゥオールによるデュオセミナーを開催し、「人と音楽をつくりあげる喜び」を感じる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
次代へ伝えたい名曲（第13回～第14回） （13回は関連レクチャー、14回は公開レッスン開催）	4月～2月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol. 34～36	6月～1月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 100回記念スペシャル	6月	情報プラザ
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	8月	情報プラザ
大塚直哉レクチャー・コンサート/オルガン・レクチャー（演奏付）	9月・1月	音楽ホール他

ベルリン・フィル ブラス・トリオ (メンバーによる楽器クリニック)	9月	音楽ホール
ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル	10月	音楽ホール
アレクセイ・ゲラシメス パーカッション・リサイタル	11月	小ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ 《クリスマス・オラトリオ》	11月	音楽ホール
アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン デュオ・リサイタル	2月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC~アーティストが学校にやってくる!	通年	県内小中学校
ピアノデュオドゥオール デュオ・セミナー創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場【共催】	8月	音楽ホール

d その他

「彩の国さいたま寄席」を4公演開催するとともに、親子で劇場空間に親しんでいただく「劇場体験ツアー」を実施した。

さらに、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の講座への協力、大学生インターンシップを受け入れた。

彩の国落語大賞の授与など若手落語家の発掘・支援に貢献した。また、地域との連携を深めるとともに、公共劇場や舞台芸術への理解を深め、さらに、地域における芸術活動を担う人材育成に貢献することができた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
劇場体験ツアー	12月	大ホール他
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場
舞台技術講座	8月～3月	大ホール他
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～7月	埼玉大学他

(イ) 埼玉会館（6事業）

埼玉会館では、大ホールの特性を活かしたフルオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団公演を、人気の指揮者 井上道義と気鋭のヴァイオリニスト辻彩奈を迎えて実施した。

また、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシック「夏休みオーケストラランド!」を実施するとともに、平日昼間のランチタイム・コンサートを4回開催した。

日本トップ・オーケストラの演奏と身近に親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供するとともに、新たな鑑賞者層を開拓することができた。また、こ

これらの事業は、地元飲食店等とのタイアップなど、より地域と密着した展開をし、地域の活性化ができた。

事業名	実施時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート 第35回～第38回	6月～3月	大ホール
埼玉会館ファミリー・クラシック「夏休みオーケストランド!」	7月	大ホール
NHK交響楽団	10月	大ホール

イ 埼玉の魅力を発信する文化プログラム

(ア) 障害者ダンスチーム「ハンドルズ」

埼玉県障害者福祉推進課との共催で制作・上演してきた「近藤良平プロデューズ 障害者ダンスチーム ハンドルズ」については、平成29年度の金沢公演に引き続き、『君とならなんか変われる気がするの』静岡公演を埼玉県の委託事業として行った。

作品の芸術性や独創性を重視し、障害者と健常者が一緒になって舞台芸術を楽しむことにより、「心のバリアフリー」の浸透を図るとともに、独自性の高い「ハンドルズ」を活用した埼玉県のPRに貢献した。

(イ) 世界ゴールド祭 2018

高齢者の舞台芸術参加促進プログラムとして、舞台芸術活動を通して高齢社会の課題に取り組む世界の先進的事例や舞台作品を紹介する「世界ゴールド祭 2018」を埼玉県の委託事業として9月から10月に開催した。「世界ゴールド祭 2018」では、インターナショナル・ショーケースとして、イギリス、オーストラリア、シンガポールの世界3か国から招いた高齢者カンパニーによるダンスと演劇公演を行ったほか、国内外の専門家を交えたシンポジウムやアーティストによるワークショップなどを開催した。

また、さいたまゴールド・シアターメンバーと菅原直樹による徘徊演劇『よみちにひはくれない』浦和バージョン、同メンバーとデービッド・スレイターによる『BED』の屋外パフォーマンスを実施した。

あわせて、ノゾエ征爾演出の「ゴールド・アーツ・クラブ」による演劇公演『病は気から』を、このプログラムの一環として上演し、700人を超える参加があった。

一般高齢者の舞台芸術表現の可能性を提示するとともに、高齢社会の課題に対して、高齢者の心身の活性化や社会包摂的機能を発揮する公共劇場や高齢者アートの持つ可能性について国内外に発信することができた。

ウ 企画展示・広報等

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催

事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催した。

a 「蜷川幸雄三回忌追悼記念『稽古場のまなざし』写真展」

(5月8日～7月24日 ガレリアにて開催)

彩の国さいたま芸術劇場芸術監督であった蜷川幸雄氏の三回忌を迎え、パンフレット編集や執筆などを通し長年稽古場を取材した木俣冬氏に当時を伺い、海外公演にも同行し多くの舞台写真や稽古場写真を撮影してきた宮川舞子氏の写真とともに蜷川氏の足跡を振り返った。

b ヘンリー五世企画展『王冠変遷～「リチャード二世」から「リチャード三世」まで』

(2月16日～2月24日 ガレリアにて開催)

彩の国シェイクスピア・シリーズ「ヘンリー五世」の上演に合わせて「リチャード二世」から「リチャード三世」まで5世代にわたる王冠を巡る、100年余りの争いに登場する人物や同じ人物を作品ごとに異なる俳優が演じる妙を東京大学河合祥一郎教授の解説と彩の国シェイクスピア・シリーズの舞台写真で辿り好評を博した。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころを、より分かりやすく伝えるとともに、財団の各種ご案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容となるよう、編集を行った。

a 発行回数、部数 年6回 各12,000部発行

b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、顧客の定着化とチケットの販売促進のため、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行った。

メンバーズ会員数 4,874人(平成31年3月末現在)

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図った。

サポーター会員数 113社(者)(平成31年3月末現在)

エ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

	資料総数	左記にかかる分野ごとの内訳				
		演劇	舞踊	音楽	映画	その他
書籍	11,173点	2,251点	616点	2,793点	713点	4,800点
CD	11,042点	9点	77点	10,567点	0点	389点
映像	2,994点	417点	484点	1,701点	173点	219点

(2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、多様なニーズに対応するとともに、施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、稽古場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携を図ることで、技術的な提案を実施するなど、利用者の問い合わせや要望に対し、適切かつ迅速に対応した。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン」を引き続き配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、他県自治体や文化施設、県内大学、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

また、財団ホームページ内の施設利用専用ページにおいて、施設利用者への各種案内を即時に行ったほか、ホール催物のチラシを掲載するなど、利用者サービスの向上を図った。

施設面においては、携帯電波の受信状況が悪かった地下1階及び地下2階の受信レベルの改善を図り、利用者の利便性向上に努めた。

一方、電気料金の値上がりへの対策も含め、空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 359,983人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	1,037日	805日	77.6%
稽古場・練習室	3,721日	3,408日	91.6%
計	4,758日	4,213日	88.5%

イ 埼玉会館

リニューアル・オープン2年目となる埼玉会館の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの向上に努めた。また、利用促進を図るため大型催事の誘致を進めた。

施設の安全管理の徹底とより充実した利用者サービスを提供するため、財団職員及び施設管理・レストラン等のスタッフによる全体会議を毎月実施し、管理運営上の課題や利用者の要望などを共有し連携しながら改善に取り組んだ。

また、施設の利用促進を図るため、ホール抽選会の落選者にキャンセル情報を随時提供した。このほか、利用者の負担軽減のため、展示室、会議室の抽選に先立って、利用希望を受け付ける期間を設け、利用希望が重複した場合は事前に調整を行い、利用者が受付開始日に抽選のための来館をせず済むよう図った。そのほか、会議室においては、Wi-Fiサービスの提供により、利用者の利便性向上を図った。

さらに、フェイスブックとInstagramによるSNSを活用した情報発信による利用促進を図った。

総来場者数 648,122人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	656日	612日	93.3%
展示室	995日	609日	61.2%
会議室	6,210日	4,631日	74.6%
計	7,861日	5,852日	74.4%

(3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

芸術文化に係る事業を推進するために、次の付帯事業を実施した。

ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会

及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

イ 駐車場及びレストランの運営

施設利用者の便宜を図るため、有料駐車場を管理運営した。

平成 29 年度から、レストラン運営について、これまでの県の行政財産使用許可から当財団による管理に切替え、レストラン営業に加え、施設利用者の要望に沿った懇親会やパーティーの開催、弁当・コーヒー等のケータリングなどサービスの充実に努め、施設の賑わい創出を図った。

ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。

また、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について、一般の施設利用との調整を図りながら、積極的に受け入れたほか、彩の国さいたま芸術劇場では、タクシー運行業者と契約し、タクシー電話を設置した。

エ 埼玉会館のブランディング事業

全国に誇れる価値をもつ「埼玉会館の歴史と建築」を発信するため、ブランディング事業として、建築セミナー「近代建築は人間の建築」を 5 月に大ホールで開催した。

また、DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 216 選」に選定され、これを記念した「埼玉会館の魅力展」を 10 月に展示室で開催した。

さらに、手描きのイラストと文字による親しみやすい「埼玉会館たてものイラストMAP」を新たに作成、配布した。また、「女性に対する暴力をなくす運動」のパープル・ライトアップに協力するなど、前川建築や埼玉会館への関心を醸成するとともに、芸術文化の振興や施設利用の促進を図った。

オ 賑わい創出と活性化のための共催・連携事業

埼玉会館では、地域社会との連携により賑わい創出と活性化を図るため、町内会のお祭りへの協力、商店会と合同で「県庁通りイルミネーション」の設置、財団自主事業の観客に対し地元商店の協力を得て各種サービスの提供を行った。

また、「日本いけばな芸術特別企画 in 彩の国」（5 月開催）を共催することで、施設全体を活用したいけばな展示や多彩な講座の展開を図るとともに、地元浦和地区で開催された美術展「美術と街巡り・浦和」において、「公共空間と美術－埼玉会館エスプラナード展」（3 月開催）を共催することで、エスプラナード（屋外）への美術作品展示を展開し、施設の公共空間を活かした新たな賑わいを創出した。本展示においては、美術家が日常空間とアートについて

語るトークイベントも開催し、ブランディング事業推進の一助とした。

カ 劇場広報事業

彩の国さいたま芸術劇場では、舞台芸術や劇場への関心を高めてもらうとともに、施設利用の推進を図るため、広報の一環として劇場見学ツアーを実施した。

2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を4回（4月、5月、3月〔2回〕）、評議員会を4回（6月、8月、3月〔2回〕）開催した。

3 役職員に関する事項

(1) 役員数（平成31年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1 人	1 人	
専務理事	1 人	—	1 人	県派遣 1 人
理 事	2 人	4 人	4 人	県派遣 1 人
監 事	—	2 人	2 人	
計	3 人	7 人	10 人	県派遣 2 人

(2) 職員数（平成31年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
部長・館長	2 人	—	2 人	
参 事	3 人	—	3 人	
グループリーダー 課長・副参事	4 人	—	4 人	県派遣 1 人
主 査	14 人	—	14 人	県派遣 4 人
主 任	19 人	—	19 人	
主 事	3 人	—	3 人	
技 師	2 人	—	2 人	
プロデューサー	—	1 人	1 人	
参 与	—	1 人	1 人	
その他非常勤職員	—	1 人	1 人	
計	47 人	3 人	50 人	県派遣 5 人